

氏名(本籍) 白坂 真紀(大阪府)

学位の種類 修士(看護学)

学位記番号 修士第66号

学位授与年月日 平成18年3月24日

学位論文題目 新生児皮膚保湿機能の基礎的研究 - 角層水分量と経皮水分蒸散量の測定から -

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	68	(ふりがな) 氏 名	しらかさ まき 白坂 真紀
修士論文題目	新生児の皮膚保湿機能の基礎的研究 — 角層水分量と経皮水分蒸散量の測定から —		
<p>目的： 正期産新生児の角層水分量(Gx)、経皮水分蒸散量(TEWL)、水保持能(WHC)を経時的に測定することにより、新生児期の皮膚角層保湿機能の成熟度を明らかにし、肌ケアを考えるうえでの基礎データを得る。</p> <p>方法： 測定方法—皮膚生体計測工学機器 (Skikon-200EX, Tewameter TM210) を用いて Gx・TEWL・WHC を非侵襲的に測定した。測定は温度・湿度を一定にした環境下で行った。 解析対象—新生児 35 名の頬部・胸部・前腕屈側部において、生後 3 日・2 週間・1 ヶ月と経時的に測定した Gx・TEWL・WHC 値 (WHC は前腕屈側部のみ) と、成人女性 17 名の前腕屈側部の Gx・TEWL・WHC 値を解析対象とした。 解析方法—SPSS13.0J for Windows を用いて統計学的解析(ノンパラメトリック検定)を行い、統計学的有意水準は 5%とした。新生児各部位の経時変化の比較には Friedman 検定の後 Bonferroni の不等式による多重比較、新生児各時期と成人の 2 群間比較には Mann-Whitney U 検定、新生児における家族歴(アレルギー疾患)の有無によるデータ比較には Mann-Whitney U 検定を用いた。なお、対象の選択および測定については倫理的に十分配慮した。</p> <p>結果： Gx と WHC は全部位で経時的に上昇し、成人と比べると、生後 3 日から 2 週間では有意に低く、1 ヶ月では同程度になった。TEWL は全部位で生後 3 日から 2 週間では低値を示し、成人と比べると有意差はなく、生後 1 ヶ月では上昇し、成人よりもむしろ高値となった。対象新生児を家族歴(アレルギー性疾患)の有無に分け角層保湿機能を比較したが、有意差は認められなかった。</p> <p>考察： 出生後 3 日から 2 週間では、角層の水分含有量・水保持能はきわめて低く、皮膚は乾燥状態で、皮膚角層保湿機能は未熟であることがわかった。そして、生後 1 ヶ月の間に、胎内から胎外へという環境変化から身体を守るべく角層保湿機能が成熟していく様子が明らかになった。それに対して、経皮水分蒸散調節機能(バリア機能)は備わっており、角層そのものの水分の少なさを補填していると思われた。生後 1 ヶ月までに未熟な角層は落屑として剥げ落ち、成人と同等の角層保湿機能が完成する。したがって、少なくとも生後 2 週間までは、角層を傷つけず、自然なターンオーバーによる角層の成熟過程を損なわない肌ケアが必要である。家族歴(アレルギー疾患)と角層保湿機能の関係は明らかにできなかったが、研究を進展させ、アトピー素因をもつ新生児の肌ケアを考えていきたい。</p> <p>総括： 新生児の皮膚角層保湿機能は少なくとも生後 2 週間までは未熟であることがわかった。皮膚は一見滑らかに見えても乾燥状態が強く、保湿に留意した肌ケアが望まれる。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
 2. ※印の欄には記入しないこと。